



三井物産が植物工場

サウジでイタリア企業に出資

三井物産は天候などに左右されず効率的に野菜が栽培できる完全閉鎖型の植物工場事業に参入する。イタリアのスタートアップに出資し、サウジアラビアに植物工場を新設する。先行する米企業も拠点を拡大している。農薬使用量の削減を求める欧州連合(EU)の環境規制案も、農薬を使わずにすむ完全閉鎖型の植物工場を手掛ける

工場にとっては追い風で各社が市場開拓を急ぐ。完全閉鎖型の植物工場は外部との接触を原則断ち人工光や水、養分を機械で制御する。効率的な生育が見込め、収穫までの時間はリーフレタスで3〜4週間と通常の10〜13週間より短くなる。水の使用量も約9割減るといふ。害虫が入らないため無農薬で栽培できる。三井物産は3月にも、イタリア北部ベネチア郊外にある植物工場スタートアップ、ゼロの株式の

約4%(750万ドル)約11億円)を取得する。追加出資も検討する。ゼロは2018年設立で、土壌を使わずに植物を育てる技術が強みだ。サウジアラビアを中心にスーパーマーケット約100店を展開するタミミマーケットを加えた3社で工場を建設し、6月にも稼働させる。ベビーリーフとリーフレタスをそれぞれ年80万、イチゴを60万個の計画だ。サウジアラビアでは厳しい気象条件から

野菜を輸入に依存している。鮮度が落ちている割に割高な商品も多いとされ、新鮮な野菜への需要は大きいとみている。調査会社のフォーチュン・ビジネス・インサイトによると閉鎖型植物工場の世界市場は、22年の約42億ドル(約5700億円)から29年には約210億ドルに増える見通しだ。植物工場は中東など乾燥地で注目されるが、今は環境規制対応での需要も期待される。EUの欧州委員会は、「欧州に自然を取り戻す」として域内での農薬使用を5割減らす規制案を発表。農薬を使わない完全閉鎖型植物工場への関心は欧州でも高まっている。植物の生育に最適な条

件の研究も進み、課題だと国内産カットレタスで20000円弱と露地栽培に比べて場合、植物工場産とほぼ変わらない水準まで下がっているという。三井物産によるの小売価格は1キログラムあたりで下がっているという。